

日中韓連携知的財産シンポジウム 2021 長官挨拶

<導入>

特許庁長官の森です。

皆さま、本日はお忙しい中、日中韓連携知的財産シンポジウムにご参加いただき、誠にありがとうございます。また、本シンポジウムの開催に向けご尽力いただいた関係者の皆さまや、お忙しい中ご準備いただいた講演者の皆さまに、この場を借りて感謝申し上げます。

昨年に続き今年の本シンポジウムも、COVID-19 のパンデミックの影響を受け、オンライン開催とさせていただきました。直接皆さまにお会いできないことは残念ですが、IT ツールを活用してお目にかかれることを大変嬉しく思います。

本シンポジウムは、2012 年に日本で最初に開催されて以来、日中韓の知財有識者により、知財における多様なテーマについて、議論や意見交換が行われてきました。

日中韓の三カ国は、もともと製造業に基盤をおいて発展してきた点や知財の法体系に共通点が多いことなどから、各国の企業、知財の実務家や学者など、様々な知財関係者にとって、他国の方々と意見交換をできることが非常に有益であると聞いています。

今回の本シンポジウムは、はじめに WIPO 日本事務所の澤井所長に WIPO GREEN について基調講演をしていただきます。その後、「ESG と知的財産」という共通テーマや、各国それぞれの知財の関心事項について、三カ国の有識者からご講演いただきます。

<地球規模の課題と知的財産（ESG 関連）>

澤井所長の基調講演や 1 つ目の講演テーマに関連しますが、環境問題や ESG に対する取組みは、知財に関連が深い話題です。

近年、企業活動において、ESG を意識して地球規模の課題に取り組みながら、業績や財務状況を健全化することが求められています。また、SDGs に代表されるように、我々の社会を取り巻く価値観が大きな変革のさなかにあります。こうした変革に適応し、地球規模の様々な課題を解

決するためには、イノベーションの創出とその適切な保護が必要であり、知財は重要な役割を担います。

日本国特許庁は、「WIPO GREEN」の活動を積極的に支援するパートナーの一員であり、世界の環境技術の活用促進に貢献してきました。「WIPO GREEN」のデータベースは、世界中で1,900以上のユーザーに利用され、120を超える組織が「WIPO GREEN」の活動を支援するパートナーとして活動しています。日本は、ユーザー数もパートナー数も世界最多です。

＜企業活動と知財＞

また、シンポジウムの後半の講演に関連しますが、企業活動において知財の重要性が近年ますます高まっています。

例えば米国では、企業による無形資産への投資が有形資産への投資を上回り、また、企業の市場価値に占める無形資産の割合が増加しています。このように、企業にとって、無形資産を含む知的財産を企業経営において有効に活用することがより重要となってきました。

こうした流れを受けて、日本国内では今年の6月にコーポレートガバナンス・コードの改訂により、企業が知的財産への投資について情報開示すべき旨が追加されました。

日本国特許庁は、政府内で行われている、企業における知財投資・活用戦略の開示の在り方、社内におけるガバナンスの在り方についての議論に参画しています。

＜結び＞

本シンポジウムは、このように各国にとって関心の高いテーマについて、三カ国の知財有識者が一堂に会し議論や意見交換する貴重な場でございます。

特に、環境問題のような世界規模の社会課題に立ち向かうには、国を越えた連携が必要不可欠であり、こうした国際的な議論の場で意見交換を進めていくことが重要です。日中韓三カ国の知財学会が議論を深め、世界に向けて情報発信することにより、我々東アジアが知財における世界規模の議論をリードすることにつながられればと考えます。

本シンポジウムが皆さまにとって実り多いものになり、三カ国の知財学会や関係者の皆さま方の連携がさらに深まることを祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

ご清聴いただきありがとうございました。

(以上)